

a

PPROACH

2017

SCHOOL OF ECONOMICS NAGOYA UNIVERSITY
経済学へのアプローチ【名古屋大学経済学部紹介】

総力特集「経済学をもっと知りたい!!」

経済学って何だ?

経済学部長からの熱いメッセージ

次の100年に向けて

在学生のアドバイス

キャンパスライフ

卒業生に聞く。

わが青春の経済学

番外編

放課後だって
みんなと過ごしたい。

名古屋大学経済学部

●みんなの溜場●

MINNA-NO-TAMARIBA

CONTENTS

経済学部長 野口 晃弘からの熱いメッセージ。

次の100年に向けて PAGE/01

●いかに経済学・経営学を学ぶか？

1. 講義 PAGE/02
2. ゼミナール・卒論 PAGE/04

●いかに情報に接するか？

1. 経済学部図書室 PAGE/06
2. 国際経済政策研究センター PAGE/08

総力特集「経済学をもっと知りたい!!」

経済学・経営学とは・・・ PAGE/09

根本二郎／長尾伸一／山田基成 3人の教授が大いに語る。

教員紹介：学部を支える40人の教員たち。 PAGE/13

●こんなこともやっています PAGE/19

グローバル人材育成プログラム／寄附講座／産業・地域連携

●キャンパス・ライフ PAGE/20

資格・学資／カレンダー／在学生からのメッセージ

●卒業後の進路 PAGE/22

就職状況／卒業生からのメッセージ／大学院

●国際交流 PAGE/25

真の国際人を養成したい!!

●経済学部・研究科への留学 PAGE/26

放課後だって、
みんなと過ごしたい。
.....

学園敷地内のひなたぼっこスペース
を地図で紹介!!

●入試のこと・・・裏表紙

この雑誌は、名古屋大学経済学部の特色、学科・講座の内容、担当教員の研究テーマ、ゼミナール、入試、卒業後の進路などについて、わかりやすくまとめたものです。本学受験に際して、受験生、高等学校の先生方、その他関係者の方々の参考になれば幸いです。



次の100年に向けて

message from 経済学部部長 野口 晃弘



AKIHIRO NOGUCHI

み なさんにとって、2020年はどのような年でしょうか？ 名古屋大学経済学部にとって、2020年は、その前身である名古屋高等商業学校が設置された1920年から数えてちょうど100年となります。名古屋高等商業学校から現在の名古屋大学経済学部に至る同窓会組織（キタン会）の現在における会員数も約1万4千名を数えるようになっています。

この100年間で経済を取り巻く環境は大きく変化しました。100年前の日本の姿、世界の姿を、歴史の教科書を読み直して思い描いてみてください。わが国の輸出が綿織物や生糸などの紡織品に大きく依存していた時代であり、就業者数でみるとまだ過半数が第1次産業に従事していた時代でした。これからの100年間も世の中は大きく変化してゆくことでしょう。みなさんは、大学を卒業してから、半世紀にわたり社会人として活躍する上で必要とされる知恵を、在学中に身につけることが求められているわけです。

名古屋大学経済学部では、経済学と経営学の両方を学ぶことができます。一般に経済学は、一国の経済全体の動きや、家計や企業の活動について、比較的抽象化した状態で分析を行うのに対し、経営学は、個々の企業や組織の活動について、具体的・実践的に分析を行います。しかし両者の境界線は思ったほどはっきりしたものではありません。たとえば、従来、経営学の分析対象と考えられてきたものに、経済学の研究方法を適用することが、最近、盛んになってきています。その意味からも、経済学と経営学の両方を学ぶことには大きなメリットがあります。

経済学部では、学生の海外派遣に積極的に取り組んでいます。本格的な海外留学へのステップとして、フライブルク大学（ドイツ）、外国貿易大学（ベトナム）、チュラロンコン大学（タイ）、シンガポール国立大学などに短期派遣するプログラムも設けられています。グローバル化と高度IT化の進む現代を見据え、名古屋大学経済学部では多様な人材の育成に取り組んでいます。

いかに経済学・経営学を学ぶか？

1

講義

名 古屋大学経済学部では、全学部共通の全学教育科目と経済学部の専門系科目を、4年間で履修することになります。

1年生、2年生の時に学ぶ全学教育科目には、少人数の演習形式で行う基礎セミナー、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語などの言語文化科目、講義と実習で構成される健康・スポーツ科学などをはじめとして、文系基礎科目、文系教養科目、理系基礎科目、理系教養科目、全学教養科目など、幅広い科目が提供されています。

経済学部は経済学科と経営学科に分かれています。それぞれの学科については、学生の皆さんの希望進路を考えて、3つずつ専門系科目の履修パターンのモデルコースが示されています。経済学科のモデルコースは、①幅広く社会で通用する思考能力を養う「経済ジェネラリストコース」、②政策分析を行うスキルと能力を養う「理論・政策スペシャリストコース」、③社会において指導的立場で活躍する人材の育成をめざす「社会経済分析コース」があります。経営学科のモデルコースには、①オールマイティなビジネスマンとして活躍できる人材の育成をめざす「経営ジェネラリストコース」、②起業家等、経営スペシャリストとして活躍できる人材の育成をめざす「経営管理スペシャリストコース」、③職業会計人として活躍できる人材の育成をめざす「会計スペシャリストコース」があります。このように経済学部では、学生の皆さんが体系的な知識を効率的に修得するための支援を行っています。（あくまでもモデルコースです。実際にはより大きな選択の自由があります。）

そして3年生からは、経済学部の最重要科目であるゼミが始まります。ゼミでは、学生の皆さんが自分で決めた専門分野において、ゼミの担当教員から2年間、卒業論文の作成に向けての指導を受けることになります。

さらに成績優秀者には、学部入学から5年間で修士（大学院）の学位が取得できるコースを設けています。

経済学部に入學した皆さんが、4年間で得た知識を糧として、社会で大きく羽ばたかれることを希望します。

Lecture



Study Guide

豊かになるための「宝」を探しに出かけよう



花園 誠

by Makoto Hanazono

唐突ですが、皆さん幸せですか？ 勿論、幸福感には個人差があって当然なので、いろいろな答えがあるでしょう。ただ、多くの人にとって、**経済的な豊かさ**は幸福の重要な一要素といえるように思います（最近の幸福度に関する研究によると、一定程度の収入があると、それ以上収入が増えても幸福感はあまり高まらないらしいですが）。しかし、貧困や失業、あるいは最近話題の格差問題などによって、つましやかな豊かさでさえ、十分に満たされていない現実があります。限られた資源や環境を生かして、多くの者が豊かに暮らしていくために、人々は、政府は、あるいは企業は何ができるのでしょうか。

経済学や経営学の対象は諸々の経済活動であり、その目標は、ざっくり言えば社会

における経済的な豊かさを高めること、と
いってよいと思います。したがって、経済学や経営学を学ぶ事とは、皆さん自身のみならず、多くの人々や企業が豊かになるために、現状や歴史を適切に把握し、様々な課題を発見・解明し、解決策を提示して、実際に役立てていくことです。

そこで、経済学と経営学を次のような「宝」を探す学問、と捉えてみましょう。経済活動における宝とは、人々が豊かさを享受することを阻むような問題点を発見し、解決することです。たとえば、資源や人材の無駄を減らすよい方法は何でしょうか。インフラや教育投資の費用対効果はどのくらいでしょうか。イノベーションを起こして、新しく価値あるものを創造するために、効果的な組織の形態はどんなものでしょうか。企業の価値を高め、従業員の雇用を守るために、企業がすべきことやしてはいけない事は何でしょうか。こういった課題の解決は、経済的な豊かさを向上するために必ず役立つものです。

学び方には様々なアプローチがあります。経済や経営に働いている原理を解明する理論分析、現場や実態から対象に接近する、データ・計量分析、ケーススタディ、あるいは歴史分析などです。大きな宝を探し当てて、皆さん自身の幸せだけでなく、周りの人々の幸福も高めることができれば、素敵だと思いませんか。

カリキュラム（経済学部）主要専門系科目

1 年	統計解析 マクロ経済学Ⅰ 一般経済史Ⅰ 財務諸表Ⅰ	会計Ⅰ、Ⅱ ミクロ経済学Ⅰ 経営Ⅰ	経済数学A、B 政治経済学Ⅰ 計量経済Ⅰ
2 年前期	マクロ経済学Ⅱ 一般経済史Ⅱ 財務諸表Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ 経営Ⅱ	政治経済学Ⅱ 計量経済Ⅱ
2 年後期 ～4 年	国際経済 財務会計 経営学演習Ⅰ、Ⅱ 金 融 経営組織 情報処理 経済地理・地誌 経営分析 農業経済 経営労務 監 査	公共経済 管理会計 経済政策 現代資本主義 ファイナンス 国際会計 日本経済論 労働経済 西洋経済史 マーケティング 経営情報	経済学史 経営学演習Ⅰ、Ⅱ 財 政 日本経済史 生産管理 経済発展 大学生のための職業論 産業組織 社会思想史 経営戦略 卒論研究Ⅰ、Ⅱ

いかに経済学・経営学を学ぶか？

2

ゼミナール と 卒論

経 済学部での勉学にとってゼミナールは、たいへん重要な役割を果たしています。ゼミは、担当の教員と原則8名までの学生によって構成され、ここでそれぞれの専門に即した研究を集中的に行います。本学部では、3年生は必ずいずれかのゼミに所属し、その成果をふまえ4年生は卒業論文をまとめることになっています。

各ゼミの活動内容はヴァリエティーにとみ一言ではいえませんが、ごく簡単に概略を紹介してみましょう。まず、2年次の後期に所属するゼミが決まりますが、それに先だって各教員によるゼミのテーマの発表、先輩ゼミ生によるゼミ活動の紹介があり、ゼミ選択の材料が提供されます。そして、各人のゼミ志望が決まった後、各教員による面接が行われ、所属ゼミが決定されます。

3年生になってゼミがいよいよ始まります。一般的には、始めはまず専門的知識を概括的に身につけるために、数冊のテキストが指定され、これを報告・討論していくという形でゼミが運営されます。夏休みには、レポート作成が課されたり、ゼミ合宿が行われ、自分が研究してみたい課題や領域が次第にはっきりとしてきます。そして、より専門的な文献の講読、個人研究の開始に移りますが、ゼミによっては、企業調査をしたり、インターゼミナール（全国的な学生の研究発表会）へ参加したりするところもあり、ゼミ活動は忙しくなります。

4年生になると、卒業論文の作成が重要な課題となってきます。教員等の意見を聞き、不十分な点は修正し、卒論のテーマ設定と論文の骨組みをつくる作業がまず行われます。専門的な文献の講読も求められます。その集大成として、卒業年次の1月下旬に卒論を提出します。

そして、この他にも、ゼミ合宿、ゼミ旅行、コンパ等、ゼミ単位の行事がたくさんあります。ゼミ活動にどの様に関わるかで、経済学部の生活は大きく変わってくるといういいでしょう。



Seminar

ゼミナールと私



福澤 直樹

by Naoki Fukuzawa

ゼミナールは教員が学生に個別指導を行なうことができる唯一の場である。大講義室での授業がどうしても一方通行のコミュニケーションになってしまうのに対し、少人数編成のゼミでは、そのつどこまめに対話ができる。テーマも通例学生の関心に即して決められる。私のゼミでも、テーマ、基礎文献は学生と相談して決めている。学生の側からみれば、当該専門分野でそれなりの研鑽を積んだ研究者を専属教師として

抱えることになるのだ。積極的に利用すべきである。

私自身の学生時代を振り返れば、折角のこのような機会を決して十分に生かしきっていなかったように思う。妙な気後れなど感じずに忌憚なく教を請えばよかったと今にして思う。だがより鮮烈に印象に残っているのは、恩師の日常的な会話の中から滲み出る学問的姿勢や物事に対する捉え方、考え方の基本である。私のような未熟者の会話の中からそのような重厚なものが滲み出てくることはとても期待すべくもないが、授業中に私が脱線して関係ない話をしだすと、学生はそれなりに面白がって聞いてくれる。個別指導によって学問体系を習熟させるというゼミ本来の趣旨からはかなり外れるが、それはそれでよいと私は思っている。

最近の学生はおとなしい。めったなことでは自発的に発言しない。そこで私はゼミナール報告、その司会と進行、コメンテーター役から、議論まで、全部学生に任せて

みた。そうしたらどうであろう。あれほどおとなしかった学生からしっかりと発言が出てくるではないか。手を抜くうまいやり方を見つけた、と内心ほくそ笑んでいる一方、学生の考え、発想、問題意識が時として我々教師にも大きな刺激になることに驚く。双方向のコミュニケーションを旨とするゼミならではの利点である。

4年生のゼミは「卒論研究」と称し、卒業論文の作成に専念する。立派な卒論を書いてよい成績を取ることで自体にあまり物質的なメリットはない。それを提出するころにはおおむね学生の就職は決まっている。しかしほとんどの学生はそれなりに頑張ってくれる。卒論は、それぞれの学生が、大学に居たこと、そこで学んだこと、そこでいろいろと考えをめぐらせたこと、これらすべての記念碑だからである。私もそれなりの心構えでサポートしているつもりである。今年も卒業式の後、学生たちが大挙して研究室を訪れてくれた。教師冥利に尽きる一瞬である。



いかに情報に接するか？

1

Economics Library 経済学図書室

名 古屋大学には、一般の学生が利用可能な図書館として、中央図書館と学部図書館（室）があります。

中央図書館には、現在、約120万冊の図書が配架され、利用者は自由に接することができます。開館時間は平日は午前8時から午後10時まで、土・日・祝日も午前8時45分から午後10時まで開館され、学生諸君や研究者に大いに利用されています。

経済学図書室は、専門図書館として存在する名古屋大学の学部図書館の中でも、その蔵書の質と量、閲覧環境等において、指折りの図書館です。

以下、その蔵書の特色の一端を紹介します。

まず、雑誌類の充実があげられます。経済学及び周辺分野の雑誌を現在、和583種、洋348種受け入れており、さらに電子ジャーナルの導入も積極的に行っています。

次に、経済統計資料、政府刊行物、企業体資料は、名高商「産業調査室」の伝統を受継ぐ国際経済政策研究センターで専門的に収集しており、その内容は中部地区では抜きん出たものです。

EU、OECD、IMF等の国際機関刊行物、アメリカ等外国政府刊行物も経済学図書室の蔵書の特色の一つです。特にEUについては、イギリス等がECに加盟した1973年以来、経済学図書室はEU情報センタ

ーに指定され、EU公式資料の主たるものはほとんど受け入れています。

以上の新しい資料に限らず、伝統ある経済学、社会思想の古典類についてもよく収集され、経済学図書室の貴重書室には、1850年以前に刊行された図書が、革表紙の背をみせて並んでいます。中には、アダム・スミスの「国富論」、マルクスの「資本論」の初版本等も含み、経済学の歴史の礎を築いたり、あるいは世界史を動かすもとなった名著を、その出版時の雰囲気伝える姿で見ることができます。

この他、同じ歴史関係コレクションとして、「イギリス革命文献コレクション」（イギリス革命に関する17世紀から18世紀の原資料およびその研究文献、図書310冊、マイクロフィルム28リール）、小川文庫（イギリス経済学とくに重商主義者、古典学派、リカード派、社会主義派の著作330点）、徳重文庫（18世紀および19世紀の西欧社会思想、特に空想社会主義、アナキズム、マルクス主義、ドイツ歴史学派の著書900冊）があります。

さらに、希望する図書や雑誌が学内にない場合も、他大学や国立国会図書館等に所蔵している図書を借用したり、論文のコピーを取り寄せることができます。



Study Guide



大学図書館との付き合い方



長尾 伸一

by Shin-ichi Nagao

わたしたちの周りにはテレビや新聞、雑誌、インターネット、携帯サイトなど、さまざまな情報源があり、それらから必要な知識を得て、私たちは生活していきます。一般の書店にも、読者の注意を引くためにイラストや写真で飾られた、いろいろな本が毎日出版されて並べられています。大学の図書館で見る本は、それらとは違って、ちょっと近づきにくい感じがするかもしれません。しかし本はもっとも重要な情報源です。たとえば現代日本経済の仕組みなど、高度で長い説明を必要とする体系的な知識を得る手段は、まだ本しかありません。みなさんが大学で学ぶのはそのような知識で、それを身につけて卒業することが社会から期待されています。「かたい」本との付き合い方を学ぶのは大切です。

そればかりでなく、図書館は頭の「ジム」です。本を読むことによって、そこに書いてある情報を得るだけでなく、情報の処理の仕方、ものの見方、考え方が発達します。「難しい本」を読むことは、ちょうどジムに通って筋肉をつけていくようなものです。頭に十分な負荷をかけて、読んでいると疲れて、いつのまにか寝てしまうぐらいの本がちょうどいいでしょう。苦勞しながら何冊も読んでいうちに、半年もすると、「頭がよくなってくる」という楽しい経験をします。

また図書館は社交場です。読書は会ったこともなく、会えるはずもない、古今東西の選りすぐりの頭脳と対話をすることでもあります。年長の人や外国の人と会話をするのは、最初はちょっととまどいます。それと同じように「古典」と話すのは、ちょっと壁があります。しかしそれを乗り越えれば、今まで知らなかった新しい世界が待っています。その中には、「一生に一度」の出会いもあります。そんな幸福な経験をした人は、もう一人で生きていくのではありません。何かあるたびに、すばらしい助言をしてくれる人がいるのです。

大学の四年間、おそらく生涯二度と訪れない機会です。ぜひ空いた時間には図書館に通って、将来のためのトレーニングや、出会いを経験してみてください。

経済学部自慢の本

BEST 3



国富論

著者：A. スミス／初版1776年

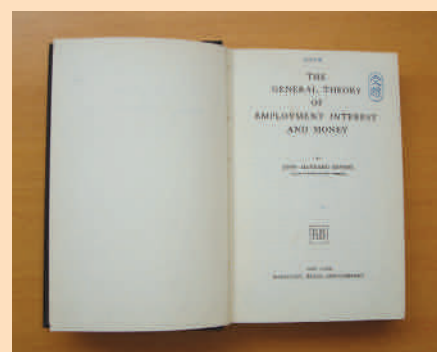
経済学をはじめて体系的に論じた著作。貨幣ではなく、生活資料の豊かさが富であり、その富を作り出すものは国民の労働であることを明らかにした。



資本論

著者：K. マルクス／初版1867年

資本主義社会の歴史上における特質を「資本」という概念を軸に解明した著作。労働の疎外など近代社会がかかえる数多くの問題を提起した。



雇用、利子および貨幣の一般理論

著者：J.M. ケインズ／初版1936年

有効需要の原理に基づいて、失業が存在しても、市場均衡たりうることを論証し、現代マクロ経済学・経済政策の原点となった著作。

いかに情報に接するか？

2



センター長
山田 基成
by Motonari Yamada

Economic Research Center 国際経済政策研究センター

国 際経済政策研究センターの起源は、名古屋大学経済学部的前身である名古屋高等商業学校（1920年創立）に設けられた産業調査室です。後に雁行形態論（flying geese pattern theory）で国際的に有名になる赤松要が、経済の研究をきちんとした実証に基礎づけられたものにするには統計などを体系的に収集する組織が必要であると訴えて、1926年に産業調査室が設置されました。そのおかげで名古屋大学経済学部・経済学研究科は、資料だけでなく資料を収集・整理する組織も継承することになり、着々とデータを集め続けることができたわけです。80年以上にわたる地道な活動の蓄積は、たとえ大金をつぎ込んでも今からではもう決して作れない貴重な財産となっています。

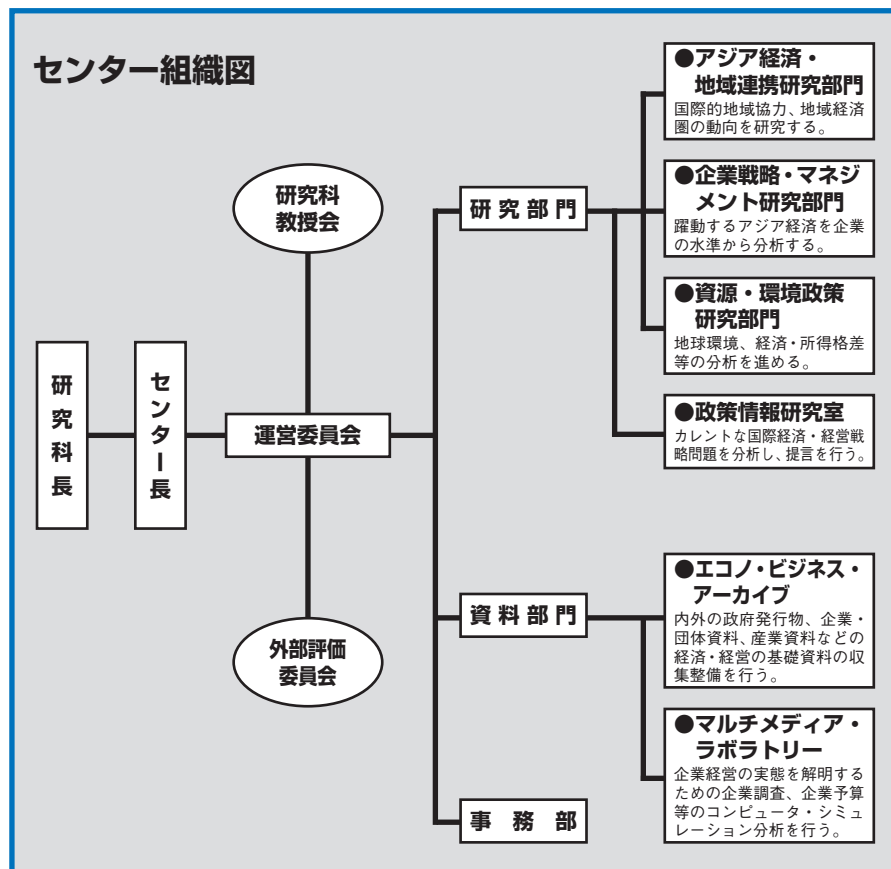
もっとも、本センターは、今日では単なる資料収集・整理組織ではありません。1970年代からの度重なる改組によって、研究機関としても着実に発展してきました。本センターは、研究・教育の両面で経済学研究科と緊密に協力しつつ、広い視点から実証的な調

査・研究を行うように組織されています。つまり、研究科の各講座による専門領域型の研究に対して、領域横断型の研究を開拓し、その成果を内外の大学、研究機関をはじめ広く社会に還元することを任務としています。

本センターは現在、3つの研究部門（「アジア経済・地域連携」、「企業戦略・マネジメント」、「資源・環境政策」）を持ち、専任教員が内外の研究者を招聘して、国際的・学際的に調査・研究を行っています。また、政策情報研究室では、経済関係の中央官庁から招かれた教授によって産学官連携活動が推進されています。そして、大型の外部資金を獲得しつつ、共同研究、国際シンポジウム、フォーラム等を行い、その成果を『センター叢書』、『調査と資料』などとして刊行しています。

なお、資料部門が所蔵する内外の統計、政府刊行物、企業・団体刊行物などは、他大学の研究者、学生、実務家の方々にも盛んに利用されています。どなたも本センターを大いに活用してくだされば幸いです。

センター組織図



総力特集

「経済学をもっと知りたい!!!」

Jiro
Nemoto



経済学・経営学とは・・・

現在の日本に求められる経済学とは何か？
私たちが学ばなければならない経営学とは何か？
長い年月、世界の経済を見つめてきた
3人の教授が豊かな未来を迎えるために
今、語り始める。

Shin-ichi
Nagao



Motonari
Yamada



総力特集「経済学をもっと知りたい!!」

①根本 二郎

現代経済学 を学ぶ

私たちの日々の暮らしは、経済によって支えられているといっても過言ではありません。衣食住に必要なモノやサービスを、私たちは欲しいときにいつでも当たり前のように買うことができます。日本だけで1億人を越える数の人々の必要を満たす無数のモノやサービスが、ほぼ過不足なく生産され供給されているのです。一方、モノやサービスを供給するためには、これまた無数の人々の技術と労力が結集されねばなりません。ごく簡単な製品、たとえば鉛筆のようなものでも、日本の工場で芯の原料として使用する黒鉛は中国の鉱山労働者が採掘したもの、黒鉛に混ぜる粘土はドイツ産、軸に使う木材はアメリカ西部で植林されたオニヒバです。この製造プロセスに関わる人々の多くは、互いに見ず知らずで国籍も違えば言葉も通じないかもしれませんが。このような人々による、あたかも一糸乱れぬような暗黙の協力によって、無数のモノやサービスは供給されます。経済は、膨大な労働力や資源を適切に動かし、あらゆるモノとサービスの需要供給を一致させて人々のニーズを満たすシステムです。

皆さんの中には、そうした経済システムのことを「神の見えざる手」という言葉で学習した人がいるかもしれません。それを需要・供給曲線の交点で価格が決まるメカニズムとして勉強した人もいるでしょう。社会的公正

と自由競争に支えられた「神の見えざる手」は、大学で学ぶ経済学でも基本中の基本です。しかし、現代の経済システムの複雑さは一筋縄では行きません。現実には、寡占や不完全な情報や政策の失敗などにより、経済システムの機能障害が深刻な問題をもたらしています。金融不安、財政破綻、経済格差、環境問題、食糧・エネルギーと安全保障の問題など、数々の難題の本質を解明し克服するための解決策を提言することも現代の経済学の役割です。

経済システムのメカニズムを解析し、現実の課題に対する解決策を見出すこと。その目的を果たすため、経済学は体系的な理論を構築するというアプローチを採用してきました。文系と呼ばれる社会科学や人文科学の中で、経済学の際立った特徴と言えます。理論を作るため、19世紀までは哲学がその主要なツールでした。19世紀後半からは数学が用いられるようになり、20世紀に入ると統計学を使ったデータ分析が加わります。経済事象を観察して仮説を立て、それをデータによって統計的な方法で検証し、反証されればいったん仮説を捨て新たな仮説に移る。このプロセスの繰り返しで理論を磨き上げて行くアプローチは、自然科学の方法論と共通します。理論アプローチを採用することで、経済学は大きな成果を収めてきました。

しかし、自然科学が明らかにしてきた物理化学法則のような明快さと厳密さで、経済学が経済事象の本質を解明できたとはまでは、残念ながら言うことができません。経済を動かしているのは人間の行動です。経済事象の本質を究めるために、私たちは人間についてもっと知る必要があります。そのため21世紀の経済学は、社会学、心理学、法学などの関連する他の人文社会科学と協力して人間理解を深める方向に向かっています。このことは、特にデータによる実証研究の面で顕著です。

一方、応用面では、ゲーム理論と呼ばれる戦略的行動理論の発展により、具体的なルールや制度設計を経済学が提案できるようになりつつあります。入札や競売のルール、公的な規制や自由化の制度設計などの領域で、経済学の知識が役立つようになっています。

経済学は、なお数多くの未解決問題を抱え、発展・前進を続けています。大学では、その一端に触れることができます。既存の知識を増やすというより、社会の中から絶えず立ち上がってくる課題に対し、解決の道を探して考え抜くこと。そこに経済学を学ぶ意義も楽しさもあると言えます。



根本 二郎
Jiro Nemoto

1958年愛知県に生まれる。1980年名古屋大学経済学部卒業、1985年同大学大学院経済学研究科博士課程（後期課程）単位取得。1985年名古屋大学経済学部助手、1987年同講師、1992年同助教授、2005年同教授となり現在に至る。博士（経済学）。文部省在外研究員として、米国ウィスコンシン大学マディソン校にて研究に従事（1993.8～1994.9）。専攻分野は応用計量経済学、経済統計学、生産性分析。

総力特集「経済学をもっと知りたい!!」

②長尾 伸一

経済学の 過去・現在 と将来

経済（エコノミー）という言葉には二つの意味があります。「エコノミー・クラス」という時のように、この言葉には「節約」という使い方があります。また「日本経済」という用例のように、衣食住という、生物としての人間の生活を支える社会的・集団的な活動を指す場合もあります。この二つはどちらも大変重要なので、それらについての考えという意味では、人間が物事を学問的に考え始めた時から経済学は存在していたと見ることもできます。事実ギリシアの大哲学者アリストテレスは社会科学に関する古典『政治学』（紀元前4世紀）の最初の部分で、後者の意味の、社会的・集団的な活動としての経済を理論的に考察しています。西洋以外の古代インドや古代中国でも、『実利論』（伝カウティリヤ著、紀元前3世紀?）や『塩鉄論』（桓寛編著、紀元前一世紀）のように、現在の言葉で経済政策と呼ばれるような事柄を体系的に論じる著作が書かれています。

しかし現在大学で教えられている「経済学」という学問が生まれたのは、17世紀から18世紀にかけてのヨーロッパででした。そのため古代ギリシア、ローマの昔から存在していた法学、政治学と異なって、経済学は社会科学のうち、近代に誕生した学問だと言えます。そうなったのには、次のような二つの理由が考えられます。

この時代のヨーロッパでは、現代の科学の原型となる学問が形を整えつつありました。とくに医学や物理学の理論的な体系が出現したことが、社会や人間を考える学者たちに、ついに世界の本当の姿を明らかにできる新しい時代が来たと感じさせました。彼らは「万有引力」のような普遍的な仕組みを社会の中に見つけられると信じ、そのために医学や物理学などの科学の方法を社会と人間の研究に応用しようとした。イギリスのウィリアム・ベティ（解剖学者、17世紀）やフランスのフランソワ・ケネー（フランス王の侍医、18世紀）のように、経済学の最初設立者たちには科学者が多く見られます。「経済学の父」と呼ばれるイギリスのアダム・スミス（18世紀）は、もともと文学や法学や倫理学などを教えた人文系の学問の先生でしたが、学生のころから科学に大きな関心を持ち、「社会科学のニュートン」となろうとしたと同時代人に言われています。この理由で、経済学は政治学、社会学、経済学という三つの社会学のうち、もっとも自然科学に近い性格を持っており、現代では物理

学に倣って、統計や方程式といった、数理的な分析手段が研究に不可欠となっています。

もう一つの理由は、この時代のヨーロッパの政治で市場経済の知識が大切になったことです。人間の歴史の中で、商業は数千年前から始まっていて、その点で市場経済は国家と同様、文明と同時に誕生したと言えます。しかし江戸時代までの日本と同様、インドや中国のような大帝国の財政は主に農業に依存しており、巨大で整備された国家が市場を重視するようになったのはルネサンス以後のヨーロッパででした。この時代のヨーロッパの国々は、アメリカ大陸で植民地を建設したり、現地の人たちの帝国を破壊して支配し、また従来の世界貿易ルートでイスラーム諸国に替ることで、世界商業の覇権を握りました。同時に多くの民族が混在するヨーロッパでは、彼ら相互の激しい争いから軍事技術や行政技術が発展しましたが、国家機構や軍隊の維持には多量の貨幣が必要でした。これらの理由で、市場経済をどう運営するかが真剣な学問の対象とみなされるようになりました。

19世紀中ごろまでの経済学はエコノミーの二つの意味のうち、社会的・集団的な活動についての学問で、国家という大きな単位での経済の動きを大局的に見ていました。その理由はアリストテレスの伝統や、細胞が発見される以前の医学が血液循環という全体的な視点で人間の体を理解しようとし、初期の経済学がそれに影響を受けたことなどが挙げられます。またこの時期は、かつては最大の商人で最大の製造業者でもあった国家が財政制度の確立によって経済から手を引くことで、国家と市場という二つの仕組みが完全に分離し、現在のような社会の仕組みが成り立っていく過程でした。そのため学者たちはこの大きな動きの根拠を尋ねて、市場経済のシステムを描き出そうとしました。それに対して19世紀以後には、限られた資源をうまく選択して最大の結果を得ようという、「節約」という意味での経済の考え方が学問の中心となってきます。その原因には、この時期に個人主義が主流の考え方となったこと、原子や粒子のような小さな基本単位から全体の動きを説明する物理学が経済学者の理想の学問となったこと、国家と市場の分離が当然の事実となり、学者の関心が市場での出来事の説明に集中するようになったことなどが考えられます。このような見方の違いはあれ、経済学は誕生以来、経済成長が国家の力の増大や社会秩序の維持、人間の幸福の増進に役立つと考え、そのための政策を学問的に研究してきました。それはグラスゴー大学の教授アダム・スミスが法学・政治学講義の中で、当時の社会の問題の大半は国家によるさまざまな法的、行政的規制でなく、経済成長によって解決できると主張していることからわかります。

それとは対照的に現代は、人類の生存を脅かす地球環境の悪化を避けるため無条件な経済成長の追求が難しく、また今世紀末には100億に達する世界人口を養うのに必要な資源、食糧、水などが不足するので、人口増加の抑制と資源・エネルギーの節約が急務となった時代です。19世紀に幾何学と算術が数学という学問に統合されたり、20世紀に化学と生物学が物理学と融合するなど、学問は時代と知識の発達によって変化していきます。経済成長が資源・環境の壁にぶつかった私たちの時代では、経済学もまた変わることを求められています。19世紀イギリスの思想家で経済学者だったJ.S.ミルは、経済成長が「停止」し、万人の衣食住が満ち足りた時代の向こうに、人類の本当の幸福があると考えました。未だ多くの貧しい人々が生きる途上国での生活水準を上昇させながら、環境・資源を節約し、量的なGDPの増大でなく、生活の質的向上を実現できる、自然と経済のあり方が釣り合った「定常社会」などと呼ばれるそのゴールを目指し、新しい経済の仕組みをどう実現していくか、人間の未来はここにかかっています。それは「市場の自由な働き」で自然に生じるものではないですが、国家や国際機関による強制的な管理で実行できるものでもないでしょう。経済学が見つめてきた自分自身の幸福を目指す個人の行動と、それによって成り立っている市場の仕組みを巧みに利用することで、はじめてその道筋がひらけていくでしょう。今国際機関や世界の国々は、そのような政策を考案して実行する試みを始めています。今後経済学は、自然科学や他の社会科学と協力し、結びつきながら、この重要な仕事を担いつつ、自分自身を変化させていくことでしょう。みなさんの世代はその中心となっていくことを求められています。



長尾 伸一
Shin-ichi Nagao

愛知県に生まれる。1982年京都大学経済学部経済学科卒業、1987年同大学大学院経済学研究科博士課程修了。滋賀大学、広島大学を経て、1999年名古屋大学経済学部助教授、2003年同教授となり、現在に至る。専攻分野は経済思想、社会思想、政治経済学。

総力特集「経済学をもっと知りたい!!」

③山田 基成

経営学を 学ぶ

◆ $1 + 1 > 2$

「 $1 + 1$ はいくつですか?」と尋ねれば、ほとんどの人は「2」と答えます。数学の十進法の世界では、確かに正解は「2」です。しかしながら、経営学の世界では唯一最善の正解はなく、解は時(時代)と場合(環境)によって変わります。数学や物理のような自然科学の分野とは異なり、人間の行動やその人間が集合した組織の営みを研究対象にする社会科学の分野では、むしろ解は一つに決まらないことの方が常です。その原因は、人間社会の中で起きる事象は、理科の実験のように一定の条件の下で同じ手順で実験を行えば、同じ結果を再現できるというわけにはいかないからです。

そこで経営学では「 $1 + 1$ 」を考えるのならば、できれば「 $1 + 1 > 2$ 」の実現を目指します。たとえば、AさんとBさんが10種類の部品から成る製品の組立作業を行うとします。二人が個別に10個の部品を組み付けると、製品1個を完成させるのに、それぞれ1時間を要すると仮定します。このときには、1時間当たり2個の製品を生産できます。しかしながら、もし二人の間で作業を分担して、Aさんは前半の5つの部品を組み付け、それをBさんが受け継いで後半の5つの部品を組み付けると、製品の完成時間は1時間よりも短くなる可能性があります。その理由は、人間にとっては10種類の作業を修得するよりも、5種類の作業

を修得する方が容易であり、一般的には各自の作業時間が短くなるからです。すなわち、二人の間で仕事を分業すれば、2個の製品を完成させるのに1時間はかからず、時間当たりの生産性は2個よりも大となる可能性が高くなります。

◆組織行動のメリット

こうして複数の人間が集まる組織の下では、個人が単独で活動するよりも、より少ない資源で、より多くのものを産出できます。皆さんも自分の身の回りに存在する、「 $1 + 1 > 2$ 」の事象について考えてみて下さい。たとえば、新聞社が新聞を発行するだけでなく、同時にプロ野球のチームを運営しているのはなぜでしょうか。それは新聞のみを単独で販売するときよりも、自分の野球チームに関する記事を多く扱うことにより、新聞の売れ行きを伸ばすことが可能になるからであり、一般紙だけでなくスポーツ紙という別の新聞も併せて販売することで、さらに売上を大きくできます。

また、組織内における活動だけでなく、外部の組織と協力することにより、「 $1 + 1 > 2$ 」を実現している場合もあります。たとえば、パソコンの機器単体のみを購入しても、用途は限られています。パソコンを複雑な計算作業だけでなく、文書の作成や各種データの整理・保存、メールの送受信などの多様な用途に使うには、それぞれの目的に応じたアプリケーション・ソフトの導入が必要です。逆に、便利なソフトが存在しても、これを活用するためのパソコン(ハード)が無ければ役立ちません。つまり、ハードとソフトは、各々の存在が相手の売上を増大させるという関係にあり、この組み合わせが「 $1 + 1 > 2$ 」を実現します。こうした関係のことを相乗効果と呼びますが、経営学は組織内外の相乗効果を発揮させる組織運営について考えます。

◆最善の行動選択

その一方で、この組織運営の難しさは「 $1 + 1 > 2$ 」を目指した行動の結果が、「 $1 + 1 < 2$ 」となる事態もしばしば生じるところにあります。これが唯一最善の解は無く、時と場合により変化するということです。過去に大きな成果を生んだ行動を学習して、同じことを試みても、必ずしも同様の成果が得られるとは限りません。

したがって、正しく表現すると経営学では「 $1 + 1$ 」の解は、「 $1 < 1 + 1 < 3$ 」といった一定幅の範囲のどこかにあるが、その値は組織が置かれた状況(環境)によって決まり、これを熟慮した上で行動選択をすることが重要となります。



山田 基成
Motonari Yamada

1954年岐阜県に生まれる。1977年名古屋大学経済学部卒業。1982年名古屋大学大学院経済学研究科博士(後期)課程単位取得。博士(経済学)。名古屋大学経済学部助手、専任講師、助(准)教授を経て、教授となり、現在に至る。愛知ブランド評価委員会委員長、豊田市産業振興委員会委員長などの公職多数。専攻分野は生産管理、中小企業経営。

▼▼▼学部を支える

Faculty

40

Members

人の教員たち。

▲▲▲

経済学を教えてくれる教員は40人。その全教員を紹介

経済学科

安達 貴教

Takanori Adachi

私は、ミクロ経済学の諸概念に依拠し、特定の経済問題を考察することを通じて、市場経済の機能、加えて、市場経済における非市場的要素の持つ役割を理解することに関心を持っている。とりわけ、競争政策や消費者政策の運営とも深く関わる産業組織論の分野を中心として研究を行っている。現在進行中の個別のテーマとしては、価格戦略、垂直的取引関係、及び、両面的プラットフォームに関するものがある。分析手法としては、データを用いた実証分析を主眼としつつ、個別の問題に応じ、理論分析に特化した研究も行っている。

荒渡 良

Ryo Arawatari

経済の構成員が政策を投票で決定するという政治経済学の枠組みを用いて、年金や所得再分配政策などの社会保障政策についての理論研究を行っている。近年では、教育コスト、高齢化、借入制約などの要因が、投票によって選ばれる社会保障政策に与える影響及び、決定された政策が所得不平等度や経済厚生に与える影響について研究している。

土井 康裕

Yasuhiro Doi

複数の国が財や生産要素の市場統合を行うことによって起こる人々の意思決定に関する効果について研究中。特に、経済統合による各国産業構造の効果と経済統合地域全体としての経済成長への影響について、ヨーロッパでEUが進める経済統合を実証的に分析し、経済統合プロセスが始まったばかりのアジア（特にアセアン）について研究を行っている。

藤田 真哉

Shinya Fujita

労使間の所得分配と経済成長、景気循環の関連性について、ポスト・ケインズ派経済学の諸理論（主にカレツキ派のモデル）を用いて分析しています。それと同時に、現代資本主義の比較制度分析やパフォーマンス比較など、フランス・レギュラシオン派の諸課題についても、研究を行っています。

福澤 直樹

Naoki Fukuzawa

現在多くの先進工業国と呼ばれる国々では、市場経済を基調としながらも社会保障が不可欠の国家機能、或いは社会機能として組織されています。このような国家および社会のあり方を福祉国家、乃至福祉社会とよびますが、それが前近代社会から今日の高度産業化社会にいたる経済の歴史的発展および構造変動の中でどのように形成され、その展開の論理はどのように理解されるべきなのかを研究しています。中でも最も古い社会保険の歴史をもつドイツを主な研究の対象としています。

花蘭 誠

Makoto Hanazono

生産活動においては、適材を適所に配置し各々に適切な努力をさせることが重要ですが、適材を見極めるための情報、適切な努力を引き出すためには、当事者にインセンティブ（動機付け）を与える必要があります。私の研究課題は、企業の内部組織や企業間関係がそのようなインセンティブの問題を制約として構築されていると考え、その原理と帰結を明らかにすることです。

木越 義則

Yoshinori Kigoshi

私の専門はアジア経済史です。19世紀から20世紀半ばにかけてのアジアにおける経済成長の歴史について研究しています。とりわけアジア各地で作成された歴史的な統計を収集して、そこからデータベースを作成し、数量データで歴史を考える仕事をしています。中国からはじめて、日本、朝鮮、台湾、近来は香港、シンガポールにも対象を広げています。

小堀 聡

Satoru Kobori

私の専門領域は近現代日本経済史です。現在はとくに第一次世界大戦期から石油危機前後にかけての開発主義に着目して、戦後日本の特長と問題点の解明に取り組んでいます。

工藤 教孝

Noritaka Kudoh

マクロ経済学の分析手法を用いて労働市場の景気変動について研究しています。雇用や失業を数理モデルで表現し、モデルのシミュレーション結果と現実のデータを比較します。また、財政金融政策や資産価格に関する理論研究も行っています。

國濱 剛

Tsuyoshi Kunihama

私の研究テーマはベイズ統計学を用いた経済データ分析です。複雑な経済事象を正確に捉えるためにはデータを用いた統計分析が必要となります。社会調査データ分析を目的として、ベイズ統計モデルの構築と、マルコフ連鎖モンテカルロ法というコンピュータシミュレーションに基づく推定方法の開発に取り組んでいます。

鍋島 直樹

Naoki Nabeshima

ケインズとカレツキを中心に経済学史を専攻している。それとともに、ポスト・ケインズ派、アメリカ・ラディカル派、フランス・レギュラシオン派などによって代表される欧米ラディカル派政治経済学の現代的展開にも関心をもち、ケインズとカレツキの理論・思想・政策の新しい発展の方向を模索している。

長尾 伸一

Shin-ichi Nagao

現代社会が抱える思想的な問題を近代社会科学の歩みを通して明らかにしようとしています。特に経済学の形成と近代科学の発展との関連をテーマにして、18世紀イギリスの科学の歴史、経済学の歴史を研究しています。

中村 さやか

Sayaka Nakamura

私の専門は医療経済学です。医療の現実を理解しよりよい政策を考える上で、ゲーム理論、特に情報を持つ人と持たない人の間のかけひきについての理論モデルと、データから物事の因果関係を検証するミクロ計量経済学が、非常に有益だと考えています。

根本 二郎

Jiro Nemoto

私企業、公企業、産業、国全体といったさまざまなレベルの生産活動を対象に、その費用構造を計量経済学的に分析している。そうした分析からは、生産効率や技術進歩の状況が明らかになるだけでなく、産業組織のありかたや規制政策の是非を具体的に検討するのに不可欠な定量的情報が得られる。

隠岐 さや香

Sayaka Oki

専門は科学技術史。17–18世紀の西洋を対象に、確率論の発展が社会科学（経済学は社会科学の一つ）の成立に与えた影響を検証している。学問分類の歴史も研究しており、今日も残る文系・理系という区分がどのような思想的・制度的背景で生じたのかを調べている。

清水 克俊

Katsutoshi Shimizu

金融機関はどのような方法でリスク・マネジメントを行っているのか、金融市場はどのような機能をもっているのか、金融政策や規制はどのような役割を果たしているのか、などについて、幅広い観点から分析・研究しています。

また、日本経済・世界経済など、マクロ経済の動向や経済政策にも関心があります。

園田 正

Tadashi Sonoda

農家は単なる農産物の生産者ではなく、消費者でもある。日本の稲作農業に多く見られるように、農家が家族だけで（自己雇用で）農業を営む場合、農家の消費者としての性格が生産活動に影響を与え、農家の特異な行動を生み出す。例えば、生産物価格が上昇するとき、普通の生産者は生産物供給を増やすと考えられるが、農家は生産物供給を減らすこともある。このような自己雇用農家の特異な行動に興味をもち、研究対象としている。

玉井 寿樹

Toshiki Tamai

公共経済学を専門としています。公的資本と経済成長、国債の維持可能性、最適課税などのテーマについて研究をしました。現在は、不確実性の下での公共財の最適供給について研究をしています。

田村 彌

Wataru Tamura

企業と投資家、上司と部下、教員と学生など様々な場面で、当事者の少なくとも一方が意思決定に有用な情報を知らない場合があります。そういった情報の非対称性がもたらす市場や組織の非効率性を軽減するために、どのような制度設計が望ましいか理論的な研究を行っています。

立石 寛

Hiroshi Tateishi

近年、経済分析を行うにあたって生ずるさまざまな問題に触発されて、いくつかの数学分野が展開されつつある。例えば、凸解析、非線形解析、非円滑解析などが挙げられよう。これら、経済学と密接に関連する数学分野が私の研究領域である。

柳原 光芳

Mitsuyoshi Yanagihara

経済成長と財政との関わりについて、動学マクロ経済理論に基づいて、(1) 公教育・私教育が経済厚生ならびに経済成長に与える影響、(2) 日本経済に関わる財政シミュレーション、および(3) 二国間経済援助の経済厚生ならびに経済成長に与える影響、の3点を中心に研究しています。

柳瀬 明彦

Akihiko Yanase

国境を越えた経済的取引（貿易や資本移動）に伴う企業や家計の意思決定や政府による政策決定に関する諸問題を理論的に研究しています。最近は、特惠的貿易協定と非関税障壁の戦略的決定、公共インフラの蓄積と貿易、資源・環境問題と貿易などの研究テーマに取り組んでいます。

萬 智恵

Chie Yorozu

ビジネスシステムの国際比較や、日本企業のリストラクチャリングについて定性面から研究しています。企業がどのように変革するのかを実際に企業内部で働く労働者に焦点をあてて考察しています。

江夏 幾多郎

Ikutaro Enatsu

雇用や就労の形の設計、あるいは処遇の実施といった、人事管理を媒介にした企業と労働者の関係について関心を持っています。「成果主義」「非正規労働力の活用」「ワーク・ライフ・バランス」など、近年の人事管理は大きな変化を遂げています。こうした中、どのような人事管理を企業が行うことが労働者にとって公正（フェア）なのか、ということについて考えています。

樋野 励

Rei Hino

我々の日常生活を支える製品を作り出す生産システムの仕組みを正しく理解すれば、大量生産に頼らなくとも安価な製品を必要なときに必要な量だけ作り出すことはできるはずである。この目的のために生産システムにおける作業計画の数理解モデルの構築とその解法の研究を行っている。

犬塚 篤

Atsushi Inuzuka

ミクロ組織論、なかでも実証データをもとにした数理解釈を得意とし、組織現象のメカニズムやそれに伴う組織行動の変容等を、計量的に解明（表現）することに強い関心をもっています。特に、知識の共有や移転、組織内意思決定、異組織・技術間の統合や連携等に関わる理論的問題を、数量化技法やネットワーク技法等の統計的・工学的アプローチによって明らかにしようとしています。

木村 彰吾

Shogo Kimura

広く会計学が研究範囲であり、特に会計と経営が交わる管理会計の領域で、以下の問題について現在研究を行っている。

1. 管理会計手法は組織のメンバーの行動に何らかの影響を与えるが、組織にとって望ましい行動をメンバーにとらせるためには、どのように管理会計システムを設計・運用するとよいか。
2. 新しく考案され実施されている経営手法の効果を損なわないような管理会計手法はどのようなものであるか。また、どのような手法の組み合わせが適切であるか。
3. 企業間管理会計
4. 製品開発の管理会計

宮崎 正也

Masaya Miyazaki

企業における新製品の開発・設計から新市場の創造へといたる、イノベーション・プロセスに関心を持っています。具体的には、個別製品の戦略的設計が企業間の競争行動・競争優位性に与える影響、および、新市場創造に向けて企業が実施するプロバガンダ活動・合意形成活動について研究しています。現在、いくつかの企業の実例を調査してケースに記述する定性的研究を行うと同時に、各企業が発信するメッセージ・データの数量的解析にも取り組んでいます。

中島 英喜

Hideki Nakashima

「貯蓄から投資へ」というキャッチフレーズがありますが、両者は代替的なのでしょうか。また、投資においてリスク資産を毎月定額購入する「ドルコスト法」は本当に効率的なのでしょうか。これら問題は、投資をリスク制御の観点で捉えると見通しが良くなります。こうした観点から、証券投資や資産価格に関する研究を行っています。

野口 晃弘

Akihiro Noguchi

企業の活動を金額で把握する会計学を研究しています。会計はビジネスの言語とも言われ、企業にとって不可欠なものです。会社法や金融商品取引法などの法令に基づく制度会計に関心があり、法律と会計の接点を中心に研究を続けています。

小沢 浩

Hiroshi Ozawa

どんな戦略も、組織の行動がきちんと制御（コントロール）されて、思い通りに動かなければ機能しません。私は、経営者の個人的資質に依存せず、数値に基づいて組織を制御する方法を考えています。電車、飛行機、自動車などの自動運転が実現しつつありますが、同じように、組織を自動で制御できるようにすることが究極の目標です。

佐野 良雄

Yoshio Sano

経営学を継続事業体の体系的研究として捉え、組織活動の企画・運営・人材マネジメントに対する考察を行っています。企業、国、地方自治体、大学、NPOなどが、成果の確認と改善、競争力の向上をどのように実行しているのかを分析しています。自身の企業勤務経験から「グローバル人材の育成」を目標の一つにしています。趣旨に賛同頂いた企業との「産学連携」も推進します。

仙場 胡丹

Hu Dan Semba

企業などの経済主体の経済活動を貨幣額で測定し、その結果を報告書にまとめて利害関係者に伝達するために会計（システム）が構築されてきている。また、会計そのもの、そして伝達時に生じる経済的な影響を研究する学問は会計学である。私の研究課題は、その経済的な影響（例えば情報有用性の側面）を考慮しながら、会計の構築（例えば国際会計基準の導入是非問題）を提言していくことである。また、「監査論」講義を担当していることもあり、監査研究領域についても注目している。

高橋 秀徳

Hidenori Takahashi

企業が活動するためにはお金が必要です。お金がなければモノを仕入れることはできません。お金がなければヒトを雇うこともできません。私の研究分野は、この企業活動に欠かせないお金の調達です。お金の調達のことを英語ではファイナンスといいます。私は、ファイナンスに関する様々な疑問をデータと統計手法を用いて分析しています。

角ヶ谷 典幸

Noriyuki Tsunogaya

専門は会計学です。会計は、様々な関係者の判断に役立つような情報を作るためのルールです。最近、投資家が国境をまたいで活動をしている以上、どの国も一つの共通したルールに従うべきだという考えが強くなってきました。しかし同時に、どの国にも歴史的、経済的、社会的、法的な背景があり、会計制度は予想以上に多様化しています。会計制度の統一化と多様化という一見、相対立する概念をどのように解決すればよいのか、具体的な証拠を積み重ねながら、解明に努めています。

山田 基成

Motonari Yamada

企業における技術のマネジメントならびに中小企業の経営問題に関心を持っている。

とりわけ近年は、イノベーションと新事業を立ち上げる際の事業システムの構築に関する研究を行っている。

萬行 英二

Eiji Mangyo

人びとが健康に生きてゆくためには、どのようにすればいいのだろうか。経済的に豊かになれば、人びとの健康は改善するのだろうか。教育を受けて情報処理能力が向上すれば、健康で長生きできる可能性は高くなるのか。社会的なストレスは健康を害する要因なのか。その他にも様々な要因が健康に影響を与えるかもしれない。これらの仮説について、入手可能なデータは何と言っているのか。健康の決定要因にかかわる仮説について実証研究を行っている。

中屋 信彦

Nobuhiko Nakaya

現旧社会主義諸国の市場経済について研究しています。特に、実際の生産活動を担う企業レベルの改革に関心があり、国有企業の株式会社化や企業管理改革、外資との合併等について、その虚像と実像を明らかにする実証的な調査研究に取り組んでいます。

西 聡

Akira Nishi

国税庁出身の実務家教員です。租税が専門です。人口減少時代に入り、財政赤字を抱えたこの国はどのような方向に進むべきか、そのための財政・税制はどうあるべきか、これからのこの国を担う学生に考えていただくための材料を提供します。また、グローバルに活躍する人材が求められる中、国家間における税の問題は避けて通れません。国際課税問題についての理解をお手伝いします。

薛 進軍

Jinjun Xue

開発経済論の専門である。開発（Development）というのは成長（Growth）の対照であり、成長の含まれない内容、例えば経済成長に伴う貧困、所得格差、教育格差、環境汚染等の問題であり、「量」に対する「質」の問題ともいえる。私は、この「質」の問題を中心に、アジア諸国、特に中国の経済成長、所得格差、労働移動、環境問題、気候変動および低炭素経済を重点に研究を進めている。

こんなこともやっています

経済学部・大学院経済学研究科

Other Important Programs

グローバル人材育成プログラム



グローバル人材育成プログラムは文字通りグローバル経済社会で活躍できる人材育成という目的を共有するトヨタ自動車、三井物産、三井住友銀行、新東工業をはじめとするグローバル企業12社の厚いご支援を得て2009年度に学部2年生を対象とした新科

目としてスタートしました。企業の最前線で奮闘されている方々を毎週講師にお招きして生の体験やグローバル経営のやり方などを現場目線から分かりやすくご講義頂きます。学生の皆さんがそこで何らかの問題意識を持ってもらうことが狙いです。

寄附講座

名古屋大学では積極的に産学連携を進めているところですが、その中に寄附講座という、教員の人件費から研究費まで一切の経費を民間からの寄付金で賄うものがあります。医学部などでは数多くの前例がありますが、経済学部・大学院経済学研究科では2009年度に初めて、アイカ工業株式会社からのご寄附により、「社会福祉経済学（アイカ工業）寄附講座」を新設しました（現在は、「CBMヘルスケアイノベーション寄附講座（アイカ工業）」）。その講座の概要を寄附講座准教授の藤田 卓仙先生に説明してもらいます。



藤田 卓仙
Takanori Fujita

日本の高齢化は世界でも類を見ないもので、10年後には65歳以上が人口の3人に1人と急速に高齢化が進んでおります。それに伴って、医療費の増大のような国家財政上の課題から、医療難民・介護難民、老老介護、孤独死等々、様々な次元で数多くの問題にすでに直面しております。そうした問題を解決するような研究に取り組むべく、本講座は、6年前にアイカ工業株式会社の篤志を得て、岩尾特任教授や、前任者の堀先生らとともに、名古屋大学経済学部にて立ち上げられました。

本講座では、①高齢者住まいの整備 ②医療介護サービス科学の研究 ③医療介護をつなぐ連携室・退院

支援ネットワークの構築 ④医療介護周辺産業の産官学クラスターの創出 ⑤老年学の研究と各成果の普及・啓蒙を進めるような、病院だけでなく街全体で高齢者を看守る仕組み（Community Based Medicine）の構築をめざして、様々な研究活動を行っております。今後高齢化が進む各国のモデルとなるようなシステムを構築し、社会貢献が出来ればと考えています。

まだ若い講座です。20年後に現役で活躍しているような世代との活発な意見交換ができればと思います。

産業・地域連携……大学院における新たな取り組み

ものづくり経営の叢智を学ぶ機会の提供

一度、社会に出て経験を積んだ人に、もう一度経済学や経営学を学び直してもらおうと、1996年に社会人リフレッシュコースを始めました。当時は、週末や夜間の講義がほとんどなく、在職しながら大学院に入学することが難しかったのですが、現在では、夜間・週末の講義を充実させ、授業を受けやすくする努力をしています。それらの講義の中でも、「製品開発マネジメント」では、トヨタ自動車のチーフエンジニアや商品企画担当者、生産技術者など、製品開発やその周辺業務に携わる方々に、トヨタ

のものの考え方、仕事のプロセス、仕事のツールなどについて分かりやすくご講義頂いています。2016年度から5年間は、名古屋大学産学連携推進本部のイノベーション教育の一部にも組み込まれ、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、岐阜大学、三重大学の大学院生に向けても開放されています。

その他に、実務経験豊富な教授陣をそろえた土曜日集中の講義、名古屋市立大学、名城大学といった地域の他大学と連携して相互の授業を受講できる制度を整えています。

「製品開発マネジメント」の講義内容 (2016年度)

- 1 トヨタの問題解決法
- 2 パートナーロボットの開発
- 3 トヨタの商品企画
- 4 部品の内外製の決定
- 5 トヨタの製品企画・開発
- 6 サプライヤーの育成と協働
- 7 新車開発のプロジェクト管理
- 8 生産計画
- 9 生産設備の開発
(Flexible Body Lineの開発)
- 10 デジタル・エンジニアリングを利用した生産準備

Campus Life

大学は本質的に自由の府であり、自分の責任で、思うままにキャンパスライフを設計できます。外国人を含む様々な友人との出会いも、大きな魅力のひとつです。

“これがあればバッチリ” 資格・学資

教員免許

卒業に必要な単位に加えて所定の単位を修得すれば、本学部においても、高等学校の教育職員免許状（「公民」「商業」など）を取得することができます。

授業料の免除

経済的理由により授業料の納入が困難で、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により授業料の納入が著しく困難であると認められる場合は、選考の上、納入すべき授業料の全額又は半額が免除されます。

育英奨学金

地方公共団体・民間の奨学事業団体などによって各種の奨学金が募集されます。選考のうえ奨学金が貸与または給付されますが、多くの学生が利用しています。

アルバイトのあっせん

アルバイトを必要とする学生に対しては、家庭教師等のアルバイトをあっせんしています。

入学料の免除

特別な事情により、入学料の納入が著しく困難と認められる場合は、選考の上、入学料の全額又は半額が免除されます。



経済学部 経済学科 4年

柴田 有香

by Yuka Shibata



わたしは高校生のころに「これからの「正義」についての話をしよう」という本に出会い、社会科学に興味を持ちました。中でも、経済的な社会問題に関心を持ち、経済について理解したいと感じたため、経済学部を志望しました。

経済学部では1、2年生は経済学科、経営学科に分かれていないため、両方の基礎を学びます。そして、3年生からはゼミにわかれ、4年生で卒業論文を書きます。ゼミでは少人数で、より専門的なことを学ぶことができます。わたしは、高校生の時に持った興味から、経済的問題を経済史の視点から理解したいと考えたので、欧米経済史のゼミに所属しています。

経済学部の授業は、座学だけでなく、簿記の資格が取れる講義、商品開発を実際に

考えてみる講義、留学生や院生の方と一緒に受けられる講義など多種多様でとても楽しいです。講義を通じて様々な考えを持った方と出会うこともできます。そして、大学生活では、自由な時間がたくさんあります。その時間を活かして、どんなこともできます。わたしは、バスケットボール部に所属し、部活動の仲間や七帝大戦を通じて得た、旧帝大の全国の友達、OGさんなどの縦のつながりを得ました。また、授業や部活動だけでなく、アルバイトやインターン、留学など様々なことを通じて、人脈、社会の常識など得られることはたくさんあります。大学4年間は、自分の意欲次第でどのようなことにも取り組めるチャンスなので、気になったことには積極的に参加してみることをお勧めします。

経済学部 経済学科 4年

鈴木 秀斗

by Hideto Suzuki

私は高校生時代に、大学卒業後にやりたいことが見つからず、「どんな業種や分野にでも就職できるのではないか」という理由で経済学部を選びました。今まで勉強したことのない領域の勉強は大変でしたが、知識を得て理解が進むごとに経済ニュースが分かるようになる楽しみがありました。

名古屋大学の経済学部では、1、2年次に経済と経営に関する基礎を学び、3年次から自分の専門を決めます。大学では、教授による講義だけでなく、外部講師を招いた講義やOB会が主催する工場見学があり、まさに「実学」という教育がされています。また、私が経済学科でありながら、経営戦略のゼミナールに所属しているように、興味を抱いたことに自由に挑める環境もあります。

充実の365日!! 年間スケジュール

4月

第1学期開始（4月1日）
入学・進学ガイダンス
入学式
第1学期授業開始
定期健康診断

10月

第2学期授業開始（10月1日）
東海地区国立大学文化祭

5月

名古屋大学開学記念日（1日）

12月

冬季休業（12月28日～1月7日）

6月

名阪戦
名大祭

1月

大学入試センター試験
卒業論文提出

7月
8月
9月

第1学期末試験（7月25日～8月5日）
夏季休業（8月8日～9月30日）
東海地区国立大学体育大会
国立七大学総合体育大会
ゼミ旅行（夏季休業中に行われることが多い）

2月

第2学期末試験
[推薦入試]
[入学試験前期日程]

3月

卒業認定者発表
卒業式



私自身、入学以来多くの知識を学んできましたが、何よりも「考え方」の部分学ぶことができたことは大きかったです。ゼミナールで経営戦略を考えることは、今まで得た知識を使う場であり、その使い方を学ぶ場でもありました。自分の知識が実務の中でどのように生かされるか知る実感は、経営学という分野に一層自分を惹きつけました。まだ勉強の最中ではありますが、経営に関わる様々な事柄に疑問を持ちながら挑む姿勢は私のこれからの生きる力になっていると思います。

大学生活は勉強だけでなく、サークルやアルバイト、あるいは他のさまざまな場所に関わる機会が多くあります。そこで積む経験や自分とは違う考え方をすると人の出会いは自分の糧になります。ぜひ、多くのことに挑戦してください。

経済学部 経営学科 4年

宮崎 友里

by Yuri Miyazaki



私は高校のとき、“社会に出て役立つ知識を身に着けたい”と思い、経済学部を志望しました。“市場の競争原理や、お金の動きについての知識は就職してから活かせる”と思ったからです。実際に入学し、経済学部の魅力を感じた点は2つあります。

1つ目は選択科目の幅広さです。経済学部は1、2年は学科に分かれず経済、経営の基礎を学びます。基礎といっても、実例に則したマーケティング手法や2変数の相関を求める統計学など様々です。ここで自分の興味ある分野を見つけ、3年は学科、ゼミに分かれます。ゼミの内容も様々で、財務諸表から企業を分析する企業会計、経済の歴史について学ぶ経済学史等、専門的に学べます。様々な分野について学ぶことで、何通りも、ものの見方があることが分かりました。

2つ目は外部の方とのつながりです。経済学部では、企業の社長、国の職員といった外部講師による講義も行われています。また、工場見学や、海外研修へ行く機会もあります。このように様々な方の話を聞くことや、現場を見ることで、視野が広がると思います。実際、私は工場見学に行き、生産工程を見学させて頂きました。そこで、原価低減、効率的生産の為の様々な工夫を知りました。座学とは違い、実際に目で見て感じる事ができた貴重な経験でした。

大学生活は、視野を広げる4年間だと思います。その点、経済学部では様々な分野について学ぶことができます。また、外部の方々の生き方、考え方に触れる機会もあります。そして、興味あることに没頭したり、アルバイトをする時間も十分あります。ぜひ大学生活を有意義に過ごしてください。

Graduates

本学部では、例年希望者のほぼ100%が希望通り就職しています。卒業生の就職先は、業種別にみると製造業からサービス業まで多岐にわたっています。

卒業生が就職した主な企業・官公庁

愛知製鋼	日立製作所	名古屋鉄道	東海東京証券
岡谷鋼機	富士フィルム	中日本高速道路	大和証券
大同特殊鋼	富士通	みずほフィナンシャルグループ	野村證券
ブラザー工業	豊田合成	りそなグループ	豊田通商
三菱重工業	NTT データ	岡崎信用金庫	住友商事
新東工業	NTT ドコモ	商工組合中央金庫	三谷商事
マツダ	NTT 西日本	信金中央金庫	伊藤忠商事
豊田自動織機	トヨタテクニカルディベロップメント	農林中央金庫	名古屋中小企業投資育成
ヤマハ発動機	トヨタファイナンス	日本政策金融公庫	愛知県信用農業協同組合連合会
三菱電機	トヨタ自動車	三井住友海上火災保険	山田ビジネスコンサルティング
デンソー	トヨタ車体	損害保険ジャパン	有限責任あずさ監査法人
東海理化電機製作所	トヨタ紡織	第一生命保険	有限責任監査法人トーマツ
東芝	コスモ石油	東海海上日動火災保険	かがやきグループ
フタバ産業	西日本電信電話	日本生命保険	監査法人トーマツ
アイシン精機	NEC	日本政策投資銀行	自衛隊
アイシン・エイ・ダブリュ	関西電力	三井住友銀行	名古屋国税局
TOTO	中部ガス	三井住友信託銀行	東海財務局
TYK	中部電力	三重銀行	東海北陸厚生局
アドヴィックス	東邦ガス	十六銀行	愛知県庁
アビームコンサルティング	サントリーホールディングス	京都銀行	岐阜県庁
オークマ	ニトリ	三菱東京 UFJ 銀行	三重県庁
サイバーエージェント	楽天	ゆうちょ銀行	富山県庁
ジェイテクト	パロー	静岡銀行	宮崎県庁
ワークアプリケーションズ	リクルート	大垣共立銀行	名古屋市役所
小糸製作所	総合資格学院	日本銀行	豊田市役所
双日	JR 東日本	八十二銀行	四日市市役所
日本ガイシ	JR 西日本	百五銀行	名古屋大学
日本アイ・ピー・エム	JR 東海	名古屋銀行	など

魚住 篤志

by Atsushi Uozumi

公認会計士／Pricewaterhouse Coopers

日本の公認会計士として日本で監査に従事した後、タイの関連企業に本人の希望で出向し、10年目になります。海外にビジネスを展開しているグローバル企業のサポートを行っています。赴任した当時、タイを発端としたアジア経済危機に遭遇しました。パーツの価値は対ドルで半分に下落し、借入金等から巨額の為替差損を被った企業の事業再構築案の提案および税務アドバイスを行ってきました。日系企業の重要な海外拠点の一つであるタイ国で、現在もM&A、事業再編、国際税務・会計監査等のコンサルティングをしています。

大学時代は、「よく遊び、よく学べ。」という名古屋大学在学中の指導教授の教えに忠実に、「歌って踊れる会計士」を目指したことを懐かしく思います。経済学部ゼミの活動およびラグビー同好会の活動を通じて、今なお、つながりのある先輩・同輩・後輩とめぐり合う事ができ、大学時代のつながりは大きな財産になっています。人とのつながりだけでなく、実社会に出た後も必要な基礎知識は、大学時代の勉強の中で習得しました。大学の4年間は、自分のキャリアパスを考えるには十分な時間です。自分の将来の可能性を信じて明確なミッションを設定してみてもいいでしょうか。



若狭 敬一

by Kei-ichi Wakasa

中部日本放送

GLAYのTERUとインタビューした翌日は、トマト農家取材。アナウンサーは日常的に「幅広いジャンルへの鋭い対応」を求められるが、その度に私は恩師の「T字型人間になろう」というアドバイスを思い出す。

T字型人間とは幅（一）と軸（|）を兼ね備えた人間。つまり、広く浅い知識や経験と狭く深い専門分野を持つ人物である。今の仕事に沿って言えば、幅広いジャンルに対して問口が広く、かつ自分独自の軸・視点で会話ができる者。不思議にこの手の人は、例え相手が初対面でも話が上滑りせず深く語り合え、鋭い対応ができるという。

教えに従い私は、経済学部の学友とまず「幅作り」に没頭した。ボスフォラス海峡を船で渡ったり、ホノルルマラソンを走ったりと好奇心に逆らわず様々な経験をした。一方、「軸作り」は4年間所属した野球部で徹底に行った。（ここで経済学の研究と言えない私を反面教師にして下さい）お陰で、肩で息をしながらも何とか現在の仕事を続けられている。

受験生の皆さん、良き友と優れた学習環境に恵まれる名古屋大学経済学部で、素晴らしいT字型人間を形成してはどうだろう。



卒業生就職等状況一覧表

業 種		25 年度	26 年度	27 年度	
1	農 林・水 産 業				
2	鉱 業		2		
3	建 設 業	5	4	4	
4	製 造 業	食 品・たばこ・飲 料	3	2	4
5		繊維・衣類・その他の繊維	2		
6		印 刷 等	3	2	1
7		化学工業・石油・石炭製品	7	3	1
8		鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	4	4	7
9		一 般 機 械 器 具	6	3	7
10		電 気・情報通信・機械器具	1	6	8
11		電 子 部 品・テ バ イ ス	6	1	3
12	業	輸 送 用 機 械 器 具	22	22	24
13		精 密 機 械 器 具			
14		そ の 他	9	3	9
15	電 気・ガ ス・水 道 業		5	2	6
16	情 報 通 信 業		11	24	20
17	運 輸 業		5	9	12
18	卸 売 業		5	5	2

業 種		25 年度	26 年度	27 年度
19	小 売 業	7	7	4
20	金 融 業	36	33	25
21	保 険 業	10	13	9
22	不 動 産 業	2	7	3
23	飲 食 店・宿 泊 業		1	
24	医 療・福 祉	1	2	3
25	教 育・学 習 支 援 業	3	5	3
26	複 合 サ ー ビ ス 事 業	3	1	
27	サ ー ビ ス 業	2	7	1
28	国 家 公 務	11	7	7
29	地 方 公 務	19	22	20
30	そ の 他	13	14	12
小 計		201	211	195
31	大 学 院 進 学	7	9	9
32	そ の 他	11	18	17
計		219	238	221

渡辺 睦樹 by Mutsuki Watanabe 電子オルガン奏者・国立音楽大学ほか講師

そもそも『経済学』に興味があったわけではない。高校時代は物理に明け暮れた理系志望の僕なのに、何故ようになったのか、気づいたらここにしか行く場所が残されていない受験生だった。

自ずと大学生活は全てにおいて「一歩下がって眺める」姿勢になった。「とりあえず覗くか」というスタンス。そうは言っても逃げられない専攻を目の前にし、フテクされて斜に構えつつ訝った「いったい何が面白いんだろう」という意地悪い質問が、人々の消費活動（すなわち『暮らし』）を解析する学問に向けられたことが実は、霞を喰らう身となってしまった今となっては、様々な事象をどうにか冷静に俯瞰するのに非常に役立っている。

『経済学』は間口が広い。地球上から武器を製造・販売するシステムがなぜ消えないのかという煩悶から、BSE問題の折、なぜ牛丼だけが消え牛焼肉丼は残存したのかという珍問まで、その入口は誰にでも開かれている。自分は何に興味があってそれをどう見ているのか、ちょっとした自己分析にも似ている。

物事の選択に迫られ、事の全貌を眺めつつ自分の本意を探る我に気づいたとき、今でも脳裏を過ぎるのは大学の大講義室とゼミ室の風景だ。



中川 藍 by Ai Nakagawa 内閣府

私は日本が抱える少子高齢化、財政赤字などの問題をなんとかしたいという思いから、国家公務員という仕事を選びました。現在は内閣府の経済部局で働いています。まだまだわからないことばかりながら、先般は基本方針や中期プログラムの取りまとめなどに携わることができ、政策の枠組み、方向性を作っていく仕事にやり甲斐を感じています。その一方で課題も少しずつ見え、今後自分がどのように成長すべきかを考え始めているところです。

大学時代で特に思い出に残るのはゼミナールで学んだことです。指導教官や仲間たちとともに卒業論文に取組んだ日々は、大変さもありながら、笑いが絶えず、刺激的なものでした。また、そこで培った問題意識が就職先を考える時に大きく影響しました。

皆さんには、大学時代にはいい仲間を作り、そして自分なりの問題意識を培ってほしいと思います。そして、気が早いかもしれませんが、就職後もそれを忘れずに考え続けてください。私も今、目の前の仕事をこなすことで精一杯になりがちですが、努力しなければならないと考えています。皆さんも大学時代に抱く思いが将来結実するよう、一緒に頑張りましょう。



大学院

学部を卒業後、将来教育者または研究者になることを志し、専門分野についてさらに深く学ぼうとする人のための教育・研究の場が大学院です。本学大学院経済学研究科には、社会経済システムおよび産業経営システムの2専攻が設置されています。

大学院では、講義を通じ専門的知識を身につけるとともに、指導教員の下で、文献の整理、資料の収集・整理、および実地調査などを通してそれぞれの専門の研究を進めます。

卒業後の進路

大学院には、海外からの留学生も多く在籍し、国際的な環境の中で研究を進めることができます。現在、中国、インドネシア、韓国、バングラデシュ、カナダ、アルゼンチン、アゼルバイジャン、モンゴル、コートジボアール、スウェーデン、タイ、ドイツ、フィンランド、ラオス、ベトナムの各国から49名が留学しています。

博士課程は、前期課程（2年）と後期課程（3年）に分かれています。前期課程では、研究成果を修士論文としてまとめ、学位試験に合格すると、修士（経済学）の学位が与えられます。後期課程では、さらに専門的な研究を進めます。

後期課程の3年間で修了し、博士論文を完成し、学位試験に合格した者には、博士（経済学）の学位が授与されます。

本研究科では、修士の学位は1101名に授与され、博士の学位は、340名に授与されました。



私が大学院で学ぶ理由



竹内 真登

by Makito Takeuchi

博士課程（後期課程）3年

私は名古屋大学大学院に入学前、社会人として一般消費者向けの住宅設備メーカーでマーケティングリサーチや商品企画を担当していました。マーケティングリサーチは消費者のニーズ等を探り、商品企画に活かしていく非常に重要な業務です。そのような業務を行う中で、リサーチ結果で高い評価を得た新機

能を搭載した商品が市場に投入されました。しかし、当該機能はあまり販売に貢献せず、また購入者の満足度も芳しくないという状況を目の当たりにしました。

このような結果を招いた理由として、様々な要因が考えられますが、私はリサーチ結果には実際の購買・使用時の評価や印象と比較して何らかのバイアスが生じているのではないかと特に考えるようになりました。また私が直面した問題で苦しむマーケティングリサーチャーが数多くいるのではないかと感じたこと、これらの課題を解決したいと思ったことが大学院に入学したきっかけです。

現在、私は博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学して上述の問題が生じる要因と課題解決に向けた研究を行っています。研究を進める中で、問題や課題を解決できる可能性を持った研究が数多く存在すると感じてきました。これらの研究を応用することで、私は現実社会に直接的に貢献出来る研究として、遂行していきたいと考えています。

真の国際人を養成したい!!

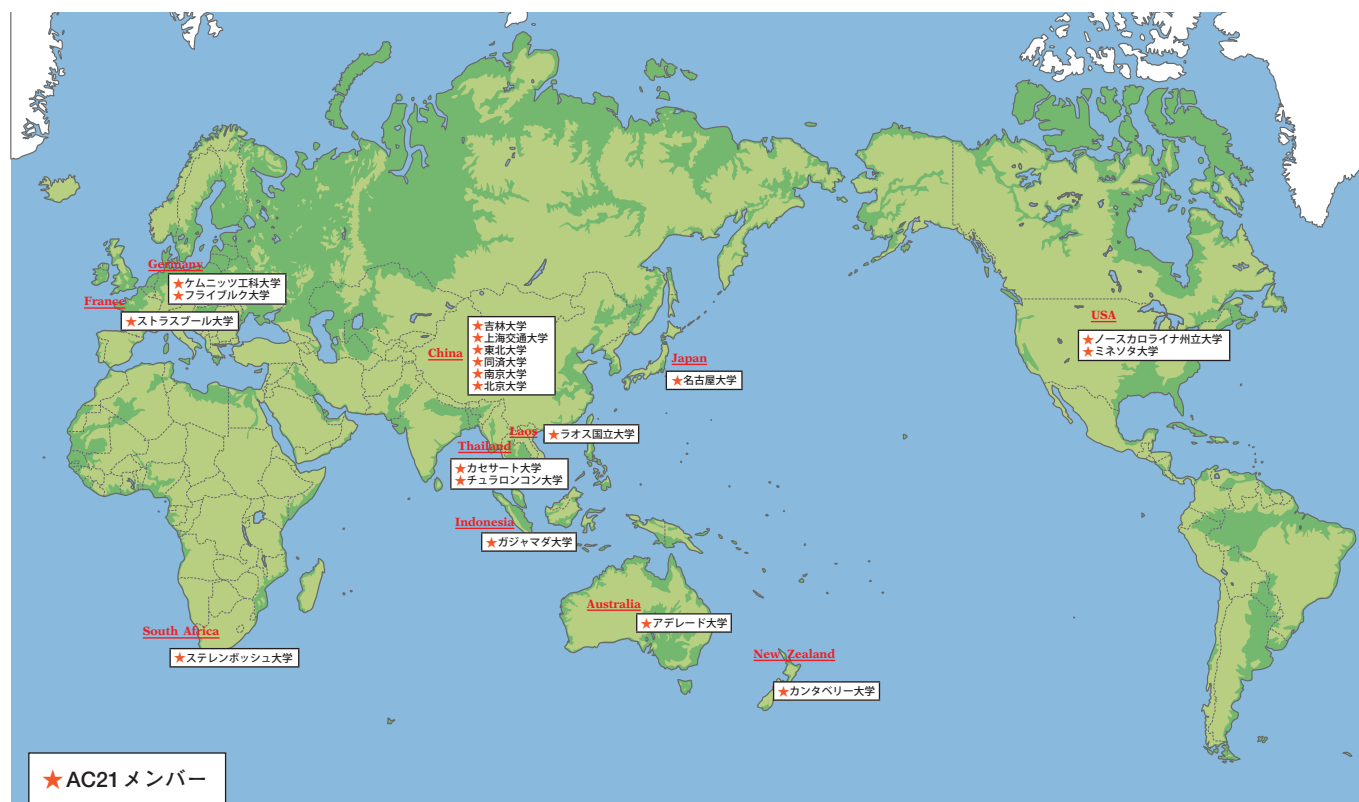
国際化の時代を迎え、名古屋大学では、世界52か国・地域の357大学・機関等と大学間協定または部局間協定を結び、学術交流を促進しています。たとえば、経済学部とドイツ・フライブルクとの交流は40年以上に及び、共同研究会がフライブルクと名古屋で交互に開かれ、その成果は日本とドイツの比較研究という形で日本語・英語で継続的に公刊されています。

また、2002年には、世界19の大学・機関と国際学術コンソーシアム（AC21）を結成し、高等教育の発展のために世界レベルでの相互協力を促進し、国際社会や地域社会に貢献することを目標としています。AC21国際フォーラム（隔年開催）は、様々な国の研究者、政府関係者、企業関係者、学生および市民が集い、広範な高等教育トピックについての情報を共有する、実り多き場となっています。

くわえて、AC21学生世界フォーラムやAC21国際スクーリングなどの学生を対象としたイベント（隔年開催）は、世界中のAC21メンバー大学の学生が国際的な問題についての議論を通して理解を深めることで、互いの偏見障壁を克服しつつグローバルに物事を考え、行動できる、勇気ある知識人の育成を目指しています。

このように、真の意味での国際人の養成を目標として、本学では、アメリカ・ノースカロライナ州立大学、オーストラリア・シドニー大学、ドイツ・フライブルク大学、中国・清華大学、南京大学、韓国・忠南大学校経商大学と部局間の協定、タイ・チュラロンコン大学などへの交換留学プログラムを多数運営し、学生に、より活発な国際交流の機会を与えています。

AC21メンバー大学と交換留学プログラムの世界的ネットワーク（2016年4月現在）



鈴木 健介

by Kensuke Suzuki

経済学部 経済学科 2013年3月卒

ドイツ・フライブルクで学んだこと

私は高校時代に日韓の学生交流グループへ参加したことから、国際的な視野が広がり、日本がアジアの一員であるということを実感しました。そして、大学では社会について国際的な視点で学びたいと考え、国際経済を学ぶことができる経済学部への進学を決めました。

経済学部ではグローバル人材育成プログラムへの参加や留学生チューターを担当することにより、世界に接する機会に恵まれました。3年生の夏休みには、ドイツ・フライブルク大学で開催された1ヶ月間の夏期プログラムにも参加しました。この経験から、ヨーロッパの経済統合に強い関心を持ち、ドイツでもっと勉強したいと強く思うようになりました。

2012年度には経済学部の交換留学へ申し込み、10月から半年間ドイツ・フライブルク大学に留学しました。大学では、欧州経済に焦点を当てた授業をはじめ、経済学の専門科目を履修しました。基本的に英語で行われる高度な授業を理解すること

は簡単ではありませんでしたが、自身の興味に関連する内容も多く、最後まで精力的に取り組むことができました。ドイツで学ぶからこそ、より実感を伴いながら欧州経済に関する理解を深めることができたのが、留学の大きな収穫です。

また、フライブルク市はフランス、スイスと国境を接する「国境地域」に位置しています。人々は国境を越えて買い物や通勤をしており、ヨーロッパにおいて国境を越えた市場が形成されていることを目の当たりにしました。またフライブルクの学生や市民らと話をし、実際に自分自身で国境を越えて隣国へ行くことを経験する中で、国境を越えることの意味が、日本人の認識とは大きく異なることを実感しました。これらの経験は、欧州統合への関心を一層大きくさせました。

ドイツでの留学を通じて得たものが、自身の次の目標や課題に繋がっていると確信しています。経済学部プログラムで留学できたことを本当に良かったと思っています。

International Students

■留学生の受入れ

名古屋大学経済学部・大学院経済学研究科には、2016年5月現在、109名の留学生が学んでいます。その内訳は、学部30名、大学院博士課程前期課程（いわゆる修士課程）33名、博士課程後期課程（いわゆる博士課程）22名と研究生4名、協定校間短期留学生（NUPACE）20名となります。この内、日本政府奨学金による国費留学生は13名、私費留学生は96名となっており、私費留学生が約9割を占めています。彼らの出身国は26カ国を数え、その研究の目的や文化的背景、年齢や経歴は多種多様です。また、2011年10月から英語による教育プログラム（G30）を開始しました。これら留学生の支援を目的として、本研究科では留学生専門教育教員・国際交流担当教員と留学生相談室を設置し、支援体制を整えています。

■留学生教育

経済学部・大学院経済学研究科において、講義やゼミナールでは基本的に日本語が使われるため、留学生にも高い日本語能力が求められます。そのため、国際言語センターに日本語研修コースが設けられており、留学生に日本語の基礎的な教育を提供しています。ただし、経済学部・大学院経済学研究科においては、日常会話以上の経済学・経営学に関する専門用語が頻繁に使われる

ので、各自の努力によって語彙力を伸ばす必要があります。講義やゼミナールなどでは、日本人学生と留学生が机を並べて勉強する機会が多くあります。このチャンスをいかして、日本人学生と一緒に勉強し、言葉の壁を克服することをお勧めします。積極的に日本語を使う努力をするということは、日本語の上達と同時に、友人も増えていくので、留学生生活の充実にも繋がります。

■留学生支援

経済学研究科の留学生相談室では、留学生専門教育教員が留学生の抱えるあらゆる悩みに対して相談にのり、問題解決の支援をおこないます。外国での暮らしというのは、期待と不安に満ちており、特に、留学生にとって、勉強の仕方や文化の違いなどは大きな戸惑いの原因となります。日本での勉強の進め方や生活、健康、対人関係など、どのような内容であっても留学生の相談に答えるのが留学生相談室の役目です。

留学生相談室としては、各種申請書の作成や就職関係の支援、さらに留学生のための様々な情報提供を日常の業務としながら、悩みや問題が起こった場合に迅速に対応できる相談体制を整えています。留学生相談室のドアは常に留学生に解放されており、留学生が気軽に立ち寄ることができる環境を作ること、問題が発生し大きくなる前に留学生と教

員並びに職員が一緒になって問題を解決していく体制作りを目指しています。

上記の経済学研究科の取り組みに加えて、名古屋大学では、全学でも留学生への支援体制が組織されております。名古屋大学留学生相談室や国際教育交流センターなどを中心に、留学生に対して多角的な支援を行っており、他大学からも高い評価を受けています。

■留学生の地域交流

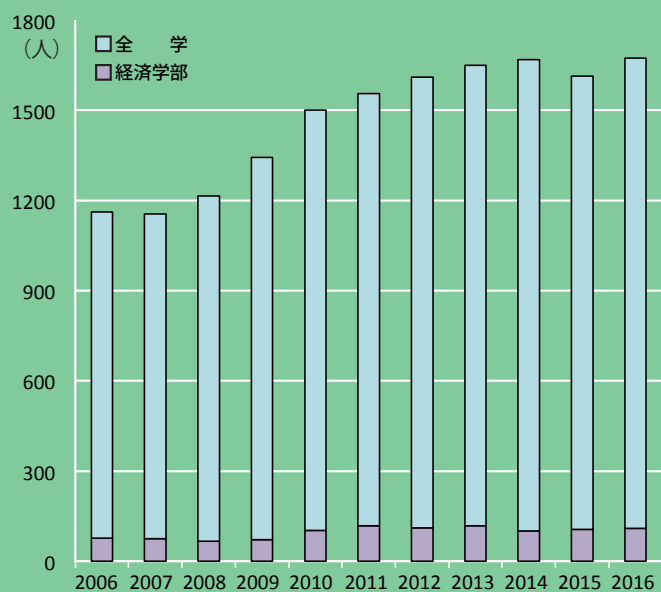
留学生生活を有意義なものとするために重要な要素の一つが地域との交流です。名古屋大学では留学生に対して、大学スタッフや地域ボランティアの方をホストファミリーとして紹介する「地球家族プログラム」を運営しています。ホストとの間に友情や親子の情が芽生え、精神的な支えとしている留学生も少なくありません。

また、留学生支援会や留学生会のイベント、大学祭、国際理解教育ボランティアなど、留学生が参加できる行事は多くあり、母国の料理や音楽などを紹介することで「民間大使」として素晴らしい活躍が見られます。

こうした活動は、お互いの国と文化を体験するチャンスですし、留学生の生き生きとした姿を見る好機でもあります。留学生にも日本人にも、どんどん参加していただき、お互いの垣根を飛び越えて一緒に笑い、そして学んでいただきたいと思います。

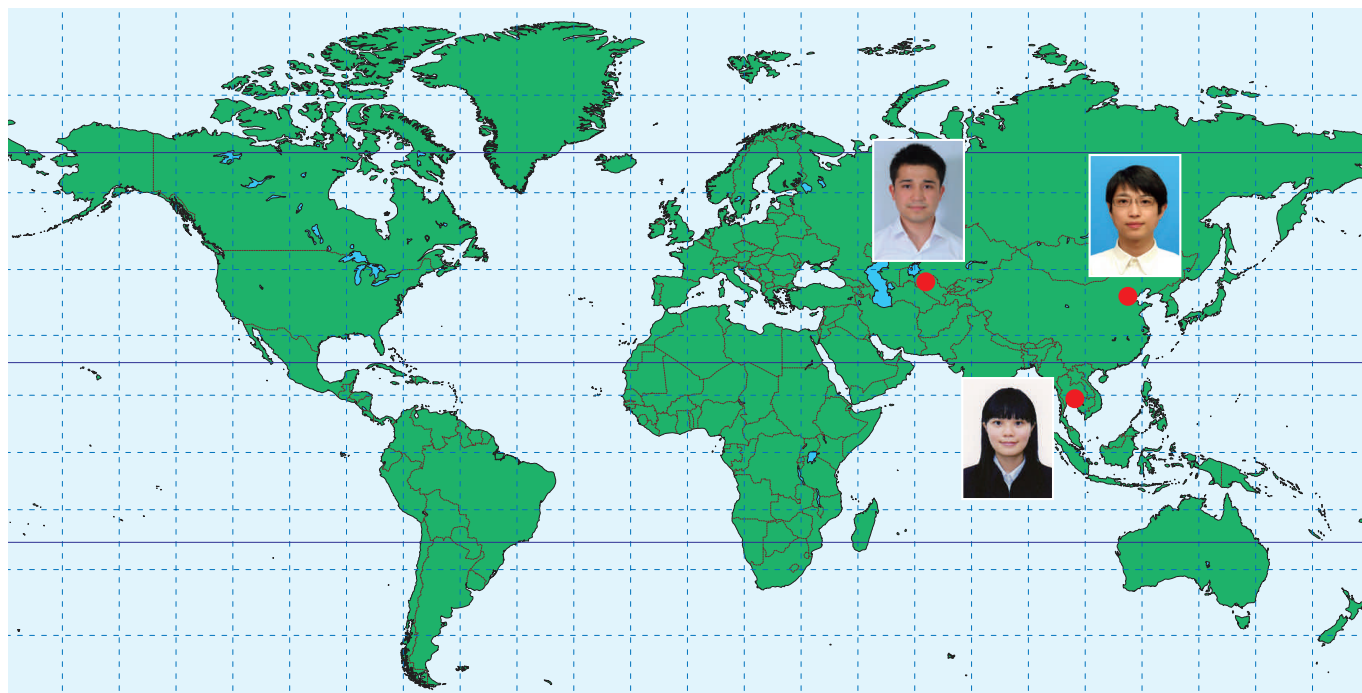
（国際交流担当・土井康裕）

名古屋大学全体および経済学部の在籍外国人留学生数



経済学部在籍留学生の出身国（2016年5月現在）

地域・国	人数	地域・国	人数
アジア		大洋州	
中国	45	オーストラリア	3
韓国	18	小計	3
台湾	2	北米	
インド	1	カナダ	1
インドネシア	1	小計	1
カンボジア	2	中南米	
タイ	2	アルゼンチン	1
バングラデシュ	2	小計	1
ブータン	1	欧州	
ベトナム	12	アゼルバイジャン	1
マレーシア	2	イタリア	1
モンゴル	2	ウズベキスタン	1
ラオス	1	スウェーデン	1
小計	91	スペイン	1
アフリカ		デンマーク	1
コートジボアール	1	ドイツ	3
小計	1	フィンランド	1
		フランス	2
		小計	12
		総計	109



地球がキャンパス ～世界について、ともに学ぼう～

MAHMUDOV Dostonbuja

ウズベキスタン／博士課程（前期課程）1年

私が名古屋大学経済学部を選んだ理由は、経済でアジアを牽引する日本で行動経済学を通じたファイナンスについて学びたいと考えたからです。現在は、ファイナンスの先生の指導の下、研究を進めています。将来、名古屋大学で学んだことを母国の発展に活かしたいと考えています。



ONGARTTHAWORN Ninnet

タイ／経済学部経済学科 4年

名古屋大学経済学部は私にとって経済学、日本語、そして国際意識を高める教室です。経済学の考え方や日本及び世界経済の実態を学ぶほか、ディスカッションを中心とする授業などによって日本人の学生や様々な国から来た留学生との交流機会が与えられています。毎日の授業と生活から新しい勉強ができ、一つ一つの挑戦を乗り越えることが貴重な経験になっています。名古屋大学での経験を活かし、グローバルに通じる視野を広めていきたいです。そして将来、国際機関などで発展途上国を支援する仕事に力を入れたいと思います。



GU Junjian

中国／

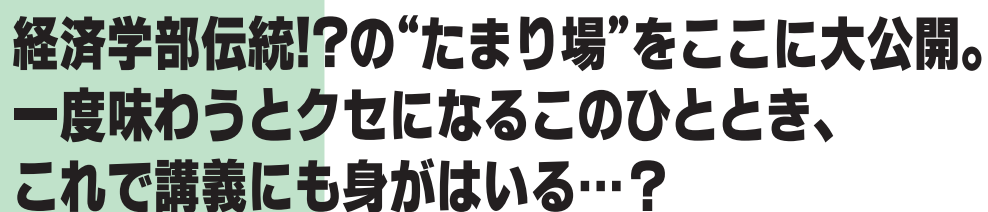
博士課程（後期課程）3年

若いうちに自分の国を離れて、外の世界を見てみたいと思い留学を考えました。日本は経済が発達しており、教育レベルも高く、とても魅力的でした。以前から財務会計にとっても興味を持っており、その分野の研究を志し、将来の博士号取得を目指して名古屋大学大学院経済学研究科を選びました。

2011年から研究生としての一年間で、日本語も随分上手になり、専門知識の勉強もたくさんできました。そして、学部の講義や研究科のゼミに積極的に参加し、さらに日本企業の工場見学や、東北大学大学院経済学研究科との共同研究会への参加を通して、貴重な経験を積むことができました。

この大学の勉強と研究の環境はとてもよく、私たちにたくさんの機会を提供してくれます。現在、私は名古屋大学経済学研究科で、勉強と研究に没頭しています。





- | | |
|----------|-----------|
| 1 経済学部 | 7 工学部 |
| 2 文学部 | 8 理学部 |
| 3 情報文化学部 | 9 農学部 |
| 4 教育学部 | 10 豊田講堂 |
| 5 法学部 | 11 シンポジオン |
| 6 附属図書館 | 12 本部棟 |

至京都・大阪
東海道線
東海道新幹線

岐阜

至大山・新鵜沼

至大山

小牧

上小田井

上飯田

中央線

至多治見・長野

尾張瀬戸

カゴヤ
ホーム前矢田

砂田橋

大曾根

平安通

丸の内

久屋大通

伏見

栄

千種

今池

本山

東山公園

藤ヶ丘

至大阪 関西線

高畑

中村
区役所

名古屋

至豊田

赤池

八事

御器所

名古屋大学

東山キャンパス

金山

上前津

鶴舞

新瑞橋

野並

徳重

金城小頭

名古屋港

中部国際空港

至豊橋・静岡・東京

東海道線
東海道新幹線

JR線

名鉄線

近鉄線

あおなみ線

地下鉄東山線

地下鉄桜通線

地下鉄鶴舞線

地下鉄名城線

地下鉄上飯田線

地下鉄名港線

「八事」駅下車 名城線乗り換え「名古屋大学」駅下車





至 八事駅





見つかるよ。
自分だけの経済学。

本年度の経済学部入学者選抜は、次のとおりに行われます。

I. 一般入試

1. 大学入試センター試験の受験を要する教科

国語、地歴・公民、数学、理科、外国語

2. 募集人員

前期日程 205名(推薦による入学者40名を含む)

3. 個別学力検査の教科・科目等

前期日程

●国語／国語総合・現代文B・古典B

●数学／数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B

●外国語／英語(コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語、中国語のうちから一つの外国語を選択する

4. 配点

右の表のとおり。

前期日程配点			
大学入試センター試験		個別学力検査	
国語	200	国語	500
地歴・公民	200	数学	500
数学	200	外国語	500
理科	100		
外国語	200		
900点		1500点	

5. その他

詳細については、11月下旬頃交付される募集要項を参照してください。

II. 推薦入試

1. 大学入試センター試験の受験を要する教科

国語、地歴・公民、数学、理科、外国語

2. 募集人員：40名

3. その他

選抜方法等の詳細については、11月下旬頃交付される募集要項を参照してください。

III. 3年次編入試

1. 募集人員：経済学科・経営学科 10名

2. 出願期間

平成28年10月6日(木)～平成28年10月12日(水) [16時必着]

3. 選抜方法

入学者選抜は、提出された出願書類、TOEICまたはTOEFLの得点及び筆記試験により総合的に行う。

《筆記試験》

試験日：平成28年11月4日(金)

教科：経済・経営に関する基礎的な問題

4. その他

詳細については、募集要項を参照してください。

◇アドミッション・ポリシー◇

現代の経済社会はダイナミックに変化しています。

現実への鋭い関心をもった皆さんの入学を。

◇教育目標◇

基礎的分析力 自主的探究力

名古屋大学 経済学部

この小冊子の内容について、判りにくいこと、またはさらに詳しく知りたいことなどがあれば、下記あてにご連絡下さい。また、ご意見やご希望をお寄せいただきますようお願いいたします。

入試担当／〒464-8601 名古屋千種区不老町B4-5(700)
TEL 052(789)2357・2358